No. 14 2010.3.15

歴史ロマン古道ニュース

【発行】歴史古街道団
事務局 〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘4-36-21 APT1・2・3-302
TEL/FAX 042-389-5534
宮田太郎（歴史古街道団 団長）
ホームページ http://rekishikokaidodan.a.la9.jp/

鎌倉時代の小山田氏が馬を走らせ弓を競った大久保台・的場近くを歩く（町田市小山田）

新たな“歴史フットパス活動”へ

歴史古街道団は今年、日本フットパス協会と協力・協働し、多摩の歴史古道と遺跡・史跡の力を活かした元気なまちづくりを開始します！

戦後最大の大変な経済不況に巻き込まれた日本。これからの歩みはどのような道を選択していこうというのでしょうか。

地方がまず元気になれるような政策が期待されると共に、国民が自発的に参画協働しつつ前進できる良い方法はないものかとの模索が各地で行われています。

そんな中、地域の隅々まで浸透し活性化できるような新たなシステムとして期待されているのが英国から入ってきた「フットパス」(foot path＝歩くことを楽しむ小径)という方法です。昔から生活のために使われてきた何気ない小路や裏道、また生業・産業・信仰によって育まれてきたような地方街道などの道に沿って地域の魅力や個性・特質は今も息づいています。そこを訪問して歩く地域外の人がそれらを享受することで元気になり、その地域に親しむ機会が複合的に生まれることが期待できるものです。

さらには、そのことにより地域の人たち自身が、自分たちの土地に眠る無限大の魅力に気がつき、訪問者を迎える体制を創り始め、相互の交流から活き活きとした雰囲気が次第に広がるかもしれません。ひいては閉塞感に包まれていた地域にこれまで考えられないような新たな経済効果や人的交流が起き始める効果も期待されます。

かつて全国の村には、村人が協働して行う「道普請」や「屋根葺き」があって扶助しあえる労働力や人間関係が残されていましたが、地方の高齢化と共に都会への一極集中化によっておこる地方の過疎化は、そうした地域コミュニティーさえ枯渇させてしまっています。

しかしフットパスは、訪問者が何度もその地域を訪ねたり、ゆったりと家族や友人など少人数で滞在したりと、第二の故郷のように心の拠り所として親しむ機会を増やし、新たなコミュニティーを創る力があることから、「地方活性の最後の切り札」と言われ、その効果が期待されています。

歴史古街道団は、これまで蓄積してきた各地の歴史古道や生活の道が持つ無限大の魅力を知っているそのノウハウと実績を活かし、2009年2月に東京・町田に誕生した「日本フットパス協会」の活動に応援・協力し、各地の古道・古街道と、そこに沿って展開する遺跡・史跡・伝説地・伝承地、文化遺産などを大いに活用する 「歴史フットパス」を全国に先駆けて推進していきたいと考えます。

国内有数の歴史古道遺跡地帯である「多摩丘陵」をモデルに、新たな取り組み方を具体的に展開し、地域での歴史探訪、歴史ロマンあふれる古道ウォークや遺跡探索会、楽しい旅をどんどん企画していきます。皆さまの積極的なご参加とご協力を、心よりお待ちしております。

宮田 太郎（歴史古街道団団長）

≪歴史フットパスについて≫

およそ人間の営みがあった所には必ず「道」があり、それは日本では縄文時代以来ずっと「造られては消え」を繰返しながら折り重なって存在している遺跡でもあります。

いわば過去の壮大な人類史や国家史・地方史を記録したレコードの溝のようなものが「古道・古街道」であり、そこをたどって歩く私たちが「針」となって前に進む時、悠久の時の中の記憶を再生し思い起こすことができるはずです。

道そのものや点在する遺跡・史跡・伝承地からは、無数の先人・先輩たちの開拓の記憶や、大自然を生き抜くたくましき雄姿、心温まる人間ドラマが蘇ってくるはずです。生活の中で育まれてきた知恵や寄り添い助け合う家族や集落の人々の生活風景を思う時、利便性というものと引き換えに大切なものをどこかに置き忘れてきたことに現代人は気がつくのかもしれません。「歴史フットパス」とは正に古道・古街道や遺跡などの歴史遺産・歴史資源から大いに元気をもらうことができる画期的な方法といえるでしょう。

№14

ウォーキングガイドをする宮田団長

日本の古代史と遺跡を歩こう！

縄文の交易の道・弥生のクニ造りの道・

宮田太郎団長と行くロマンウォーク

関東の古街道ウォークシリーズ

かねてよりご要望の多かった「奥州古道＝奥州古街道」を今年からシリーズで本格的に探っていきます。本年度は、まず武蔵国府（府中）に近い聖蹟桜ケ丘（多摩市）から足柄や箱根までを順繰りに探り、次年度は府中から多賀城まで古代・中世の奥州道を探っていきます。皆様のご参加をお待ちしております。

■4月4日（日）奥州古街道を探る①
『 聖蹟桜ケ丘～愛宕神社 』

【内容】かつて日本列島の西国と東国の間を相互に人々が行き交った「奥州道」。江戸時代には五街道の「奥州街道・奥州道中」が江戸から東北地方まで整備されましたが、中世には鎌倉から仙台多賀城に向けての「奥大道」（吾妻鏡）もありました。しかし本来は、京都や奈良・飛鳥の都から始まる古代官道であったはずであり、それは足柄・箱根峠から多摩ニュータウン付近を経て多賀城まで続いたと考えられます。官道でもある「奥州古道」「奥州古街道」は、坂上田村麻呂や源頼義・義家親子の蝦夷平定の兵団派遣の道、献納物や税納品の輸送の道なのです。

【コース】京王線聖蹟桜ケ丘駅西口改札前に9：30集合～徒歩で一宮の渡し～小野神社～落川遺跡～昼食（一宮の川崎街道沿いのファミレスや、そば屋などで自由）～宝蔵橋～へっぴり坂～東寺方～体育館（休憩）～鎌倉沢・女沢～恋路原（後路原・国府路原）～愛宕山と愛宕神社～愛宕バス停（解散）多摩センター、聖蹟桜ケ丘方面へ。約６キロ。（解散は 15:45 頃）

■5月1日(日)　奥州古街道を探る②
『 唐木田～小山田大泉寺 』

【内容】奥州古道シリーズの第二弾。多摩ニュータウンから奥州古道は西に三つに分かれて（奥州古道中尾ルート、常盤ルート、奥州廃道）相模野に続いていました。今回は最も古い奥州廃道を探っていきます。ゴルフ場の中の峠付近での古街道から続く景色は美しく、踏み跡の地層も一部露出しています。平安時代に京都と武蔵府中の間を通った源頼義や八幡太郎らが往来した古道をたどっていきます。

【コース】小田急多摩線「唐木田」駅改札口前に9：45集合～大妻大学脇の展望所～多摩よこやまの道～小山田氏の道～語り部の丘～小山田古戦場～奥州古道の踏み跡と峠～奥州廃道～小山田緑地の大久保分園（各自弁当昼食）～梅木窪～大泉寺～小山田緑地～日大三高バスターミナル（解散は 15:45 頃）＊多摩センター、町田バスセンター、淵野辺方面へ。

■6月22日（火）　奥州古道を探る③

歴史古街道団・鎌倉古道さとびとの会 合同主催

『 鳥居峠～箭幹八幡宮～淵野辺 』

【内容】奥州古道シリーズの第三回目は、いよいよ多摩丘陵から相模野へと武相国境の境川を渡ります。八幡太郎源義家や源義賢・義平らの伝説に彩られ平安～中世の豊富な遺跡がある地。後醍醐天皇の第一皇子・護良親王をあやめた淵野辺義博の館跡から、ヤマトタケルが泊まったという小野家までを探っていきます。

【コース】多摩センター駅小田急改札口前9：00集合～路線バスで日大三高バスターミナル～大泉寺前の奥州廃道痕跡～小山田神社（内ノ御前社）～鳥居峠（リサイクル文化センター）～八幡平～桜美林大学の奥州廃道～町田街道のファミレスほか飲食店で自由昼食（弁当の方は箭幹八幡宮付近で）～箭幹八幡宮～日向根遺跡群～淵野辺義博館跡～皇武神社（日本武尊伝説地）（解散は 15:45 頃。）＊路線バスで町田駅、淵野辺駅へ。

日帰りバスツアー　7月24日（土）
縄文ロードを車山高原に探る

【内容】諏訪湖の御柱祭のルーツは縄文時代から鎌倉時代まで続いていた鹿狩り神事の大祝（おおほうり）が泊る穂屋だ！――多摩ニュータウンにあった縄文市場地帯から出土する黒曜石のルーツを求めて、原産地である高原地帯を探索する中で、当時、親戚関係にあった多摩への古道を遂に発見。一方、鎌倉幕府が参加していた鹿狩りの祭典に関わる遺跡は、今も八島湿原にスタジアムの痕跡と大量の土器片を残しています。祭典の日は貴賤の民や芸人で満ち溢れたという車山高原に立ち、壮大な縄文祭りと多摩ロードの幻想を探っていきます。

茅野の縄文神殿

ウォーキングの共通参加事項

◆参加費＝団員700円（ご夫婦は２人で 1,000 円）一般は1人 1,000 円。
◆持ち物＝雨具、飲み物持参。昼食は飲食店利用の場合と各自弁当の場合がありますので詳細は各案内参照。
◆雨天の場合は基本的には中止（ただし小雨の場合実施することがあります。朝7：30までに実施の有無をお問い合わせ下さい。

【お問合先】宮田団長の携帯電話 090-7002-3431 まで

～関東の古街道ウォークシリーズ～

魅力いっぱいの古道探索！

■7月6日（火）　関東の古街道ウォーク

『東山道武蔵路と秋津の悲田処古道を探る』

【内容】東山道は関東平野の北辺を東西に通っていた古代国道。その途中の新田や太田から武蔵国府府中に上り下りしていた国道（12M幅）が武蔵路。東村山から文屋秋津という官人に縁があるという説がある秋津へ。旅人を救った救護所「悲田処」があったというロマン、府中の真北の北辰ラインにあたるなど不思議な秋津を探ります。

【コース】西武国分寺線「東村山駅」改札口前に10：00集合～東山道武蔵路発掘地点～鎌倉古道～榛名神社～久米川の辻～梅岩寺～柳瀬川蛇行点～コモディイイダ付近で自由昼食～秋津地蔵堂～氷川神社～秋津神社～武蔵野線「新秋津駅」。解散は15:45頃。約5キロ。

■9月20日（日）　奥州古道を探る④

『　相模原市大野台～麻溝台　』

【内容】今回の部分は2010年3月新発見の古街道遺構で、1500Mも続きます。大野台の美しい森の中の古道跡として残り、その先の大野台中学近くからは「古代東海道・防人の道」や「行者道」と言われた「大山街道」や家康の遺骨を日光へ搬送した道「御尊櫃御成道」も一点に集まってきます。森の中には巨大な（12M 幅？）の窪みが今も判別でき、古代国家が建てた駅家（うまや。古代国道の休憩所）も発見できそうです。

【コース】JR 横浜線「古淵駅」改札口前＊淵野辺ではないので注意――に午前9：45集合～古代東海道・防人の道～奥州廃道（大野台5丁目）～緑地帯の中の古街道遺構～大野台中近くの行者道（大山街道・家康御成道）～古道が集まる謎の地点～北里大学通りのファミレスや飲食店で自由昼食～麻溝緑地の古道辻～二つ塚跡と一等三角点測量基線～うまやくぼ（解散15:45頃）＊北里大学前バス停～JR横浜線・相模原駅、上溝駅方面へ

講師：宮田 太郎（団長・古街道研究家）

～諏訪御柱祭のルーツと御射山遺跡の謎～

【コース】聖蹟桜ケ丘駅西口改札前に7：40集合～貸切バスで中央道～諏訪南IC～御射山神社～エコーライン～尖石遺跡～昼食（飲食店予約）～茅野仮面ビーナス出土地と八本柱建物～大門坂～八島湿原・御射山遺跡（鎌倉時代の鹿狩りスタジアム跡）と元御射山神社～多摩古道～茅野IC～中央道～聖蹟桜ケ丘駅。解散は18：30頃。

◆定員：23人（先着順）　◆参加費：大人8,000円、子供6,000 円（昼食代は別途個人負担）　◆申込：7月14日（水）〆切　◆申込先：FAX（042－389－5534）またはメール（kokaido@r3.dion.ne.jp）宮田まで。

2010年度定期総会開催！

5月30日（日）　13：30～16：45

会場：多摩市立関戸公民館・大会議室

（VITA8階/京王線聖蹟桜ケ丘駅西口から歩3分）

●一部/総会　　13：30～14：30

●二部/歴史講演会　14：45～16：45

●二部/　歴史講演会　～入場無料～

『新視点！飛鳥真神人と古代武蔵国の都市設計』

～キトラ古墳と武蔵大国魂神社の深い関係の謎～

●講師：宮田 太郎（団長・古街道研究家）

【内容】我が国の古代都城である藤原京や平城京、平安京が見事な東西南北で設計されているのは、明らかに方位計算があったから。「北」をどうやって計測したのか。聖徳太子、太政大臣、皇太后、太極殿、太郎などの「太」の字や「キトラ」の深い意味とは何か。そして飛鳥の中心軸である中ツ道が通る「天香具山」にこそ、武蔵国府大国魂神社や武州御嶽神社に関わる神祀りと古代都市建設に関わる卜占＆測量技術のルーツがあった！！――　数々の共通する証拠を飛鳥と府中・多摩で発見した事実とロマンについてお話しします。

学習会

8月1日（日）　13：30～16：30

『関東の邪馬台国時代ロマン

“ 東京湾連合王国 ”』

●講師：宮田 太郎（団長・古街道研究家）

●会場：多摩市関戸公民館・大会議室（VITA8階）

●会費・500円（一般700円）

●申込：当日受付　先着90名

【内容】邪馬台国論争は江戸時代から続き、九州なのか大和なのか、あるいは他にあるのかと論議は平行線である。しかし、今最も注目すべきは、環東京湾の弥生～古墳時代前期遺跡群なのです。横浜港北エリアだけで、古墳時代に先行する弥生時代の環濠集落は30箇所以上もあるだろうといわれてきています。卑弥呼より古い時代に始まる遺跡群がなぜ東京湾沿岸に集中するのか。また相模湾沿岸ではどうだったのかなどを考えます。

8月22日（日）　13：30～16：00

『暦と日本人～縄文・弥生から現代まで～』

●講師：須知 正度（すち まさのり）・団員

●会場：多摩市関戸公民館・大会議室（VITA8階）

●会費：500円（一般700円）　当日受付

【内容】カレンダーに縛られる・追いまくられるなどと時々耳にすることがあります。そのカレンダー、つまり暦の由来を探ってみましょう。併せて、暦に関する知識も蓄えましょう。

ガイド・リーダーと行く史跡探索

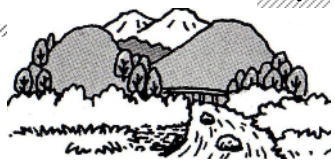
新企画！　サンデーウォーキング
多摩よこやまの道を歩こう！

4月11日　5月9日　6月13日　7月11日　8月8日　9月12日
参加費/団員300円、一般500円
ガイド：須知正度（団員）　（連絡先/☎090-3695-7580）

毎月第2日曜日、永山駅集合！

【内容】当団は「よこやまの道」に「防人見返りの峠」の標柱を設置し、恒例の「さきもりまつり」では時代衣装の万葉人と歩くコースの一部にもしています。多くの古道と重なり交叉し、それらの痕跡や伝説も多く、古道や歴史に関心のある方々に愛好されています。また、里山の自然が残っており、四季を楽しめます。この豊かな道を歩き・感じ・味わってみませんか！東・西2コースを隔月交替で歩きます。4月は東コースを歩きます。

【コース】京王多摩線永山駅
9：30集合～バスで多摩車庫へ。ここを起点。解散は13：00頃
●東コース：古道五叉路～並列古道跡（古代中世東海道跡？）～防人見返りの峠～もみじの広場～（瓜生黒川往還）～弓の橋（最寄駅：若葉台駅、はるひ野駅）
●西コース：妙櫻寺（鎌倉古道）～旧有山家・加藤家住宅～炭焼き小屋（鎌倉裏街道）～石仏群（奥州古道）～古戦場と塚跡他～（奥州廃道）～小山田緑地分岐路～唐木田駅へ、または奥州古道（常盤ルート）を歩き唐木田配水場経由京王堀之内駅へ



●4月17日（土）
新田義貞の鎌倉攻め
～攻防の要となった尾根を歩く～

ガイド:藤田一彦（副団長）

【内容】元弘三年（1333）五月、新田義貞は巨福呂坂、化粧坂、極楽寺坂より鎌倉を攻めたが、幕府軍の防衛線を破ることができず、潮の引いた稲村ヶ崎の浜辺を通ってようやく鎌倉を攻略した。稲村ヶ崎の浜辺から鎌倉へ侵攻することを可能にしたのは、極楽寺の子院・仏法寺のあった霊山を新田軍が占拠し、浜辺を通る軍勢に横矢を射て侵攻を妨げていた幕府軍を排除することができたからでした。尾根に設けられた防衛施設と思われる遺構（一升枡、五合枡）、仏法寺（霊山寺）跡と、大仏の切通しを訪ねます。あまり人の通らない尾根を藪こぎ風に歩かなければならない所があります。歩行距離は短いですが、少し健脚向きのコースになります。
【コース】ＪＲ横須賀線「鎌倉駅」東口改札前10：00集合～バスで「火の見下」～大仏切通し～長谷配水池～一升枡遺構～極楽寺のあたりで昼食～五合枡遺構～仏法寺跡～江ノ電極楽寺駅又は稲村ヶ崎駅（15:00頃解散）
連絡先:藤田一彦　☎042-752-9840

●5月15日（土）
新緑の初夏、民権フットパス

ガイド：安藤雅子（団員）

【内容】緑あざやかな野津田の里山を往時の自由民権運動家達を偲んで歩いてみませんか？芍薬や薔薇などの花々も美しく色を添えてくれることでしょう。最初に、自由民権資料館を訪問し、係りの方から一時間程度の解説をしていただきます。その後、自由民権運動家達のゆかりの地を昼食を挟んで歩きます。
【コース】小田急線鶴川駅北口改札前
9：30集合～自由民権資料館～野津田神社～自由民権の森（石阪昌孝墓碑）～町田ぼたん園（昌孝屋敷跡、出会いの碑）～昼食～石阪昌孝生家～華厳院坂～野津田公園（村野常右衛門屋敷）～村野小児科医院（常右衛門生家）～川島入口バス停（解散、15:00頃）神中バスで鶴川駅へ
連絡先：安藤雅子（☎042-735-1615）

●5月23日（日）
鎌倉街道秩父道と
八王子城上道を探る

ガイド:山下　実（団員）

【内容】北條氏照は天正10年(1582)頃、八王子城を築き滝山城から移転したと伝えられています。その移転は城下町全体を含めたものであったため、本城小田原との道も新設・普請されました。八王子城下・多摩御陵等に残る道筋を探ります。また、鎌倉幕府の御家人梶原景時ゆかりの八幡神社を訪ね、城下町から城につながる上を訪ね、城下町から城につながる上級武士用の上道と、一般武士用の下道を確認し、大木戸にある北條氏照の菩提寺、宋関寺を訪ねます。
【コース】ＪＲ中央線／京王線「高尾駅」南口（京王側）改札口前9：30集合～ＪＲの古道ガード（仮称）～南浅川に掛る、こどう橋－稜南公園（休憩）～多摩御陵入

調査研究報告　王権　旧暦

はじめに

前回のカレンダーに続き、明治以前に使用されていた旧暦(太陰太陽暦)の歴史を振り返ってみよう。
現在でも一カ月を三つに分けて上旬中旬下旬という言葉を使用している。また、年初の月を正月という。これらは、暦の中国からの伝来を示す身近な名残である。古代中国では「旬」の各日を示す記号として、十干(甲乙丙丁戊己庚辛壬癸)を使用していた。また、「月」を示す記号として十二支(子丑寅卯辰巳午未申酉戌亥)を使用していた。さらに、十干と十二支を順に一つ一つ組合わせた六十干支で日と年を表すようになり、現在でも使用されている。では、暦はいつ頃中国から日本に伝えられたのであろうか？

１．暦の日本への伝来ー一考察

日本書紀によれば、欽明朝（553）に百済に暦書を要求、持統朝（690）では暦を正式採用し、元嘉暦、儀鳳暦を併用開始とある。そうなのであろうか？この点に関しては、有坂隆道氏の考え方が理にかなっていると思われる。以下の通りである。
中国では暦は皇帝権のシンボルで、新帝王が新暦を天下に発布し、国民にこれを遵奉させた。これを「正朔を奉ずる」（正は歳のはじめ、朔は月のはじめ、つまり正朔は暦）といい、皇帝の統治に服する意味に用いられる。
中国古代の歴史書によると、「倭

の象徴として渡来
(太陰太陽暦)を読むと

暦の2000を歩く-(2)

須知(すち) 正度(まさのり) (団員)

王」が何度か中国の皇帝に朝貢している。金印を後漢光武帝から賜った「倭の奴国王」、魏に朝貢使を派遣して「親魏倭王」に制詔された邪馬台国女王卑弥呼、中国南朝に朝貢した「倭の五王、讃・珍・済・興・武」たちは、中国皇帝から周辺諸国の王として爵位・称号を授けられている。このことを冊封といい、「倭王」の側からは王権の正当性が認められ、その安定・強化を図ったのである。「倭王」はこの時、併せて「暦」も授けられたと考えられる。このことは、暦が普及していたのではなく、「王」の周辺には暦が伝えられていたと考えられる。つまり、公文書(朝貢使が携えたであろう上表文など)の日付は、「授与された暦」に従っていたと考えられるから。また、考古学的な資料、埼玉古墳群の稲荷山古墳から発掘された鉄剣の「銘」は、「辛亥年七月中記」と書き始められている。これを「471年7月処暑」と解釈すべきで、暦がすでに使用されていた証拠と考えられている。従って、雄略朝頃には、暦が伝来し使用されていたと考えられるのである。ちなみに、日本書紀は作成時に雄略朝までを元嘉暦、それ以前を儀鳳暦による長期暦を創って書かれているとも指摘されている。

2．日本における暦の変遷

古代には中国から暦を直移入していたこと、時代が下って百済や唐から暦を移入していたのは間違いない。

平安時代から江戸時代まで唐から移入した宣明暦が823年間も使用されたのは、中国との没交渉の証拠である。しかし、この間三島暦などの地方暦が生まれる要因ともなったが、月の動きとのずれや吉日判断の誤りなどの問題が生じたと伝えられている。徳川幕府の命令で渋川春海が貞享暦を作成した(1684年)のが日本での最初である。明治5年(1872)12月3日から太陽暦(グレゴリオ暦)に改暦したが、それまで公式に使用されていた天保暦からの突然の変更であった。西欧諸国対応や財政逼迫で役人の月俸支払に窮する、旧暦は迷信多く新暦は科学的合理的などの理由であった。ただし、歳の干支が「壬申」だったという点が意味深長である。

3．暦作成の考え方

旧暦(太陰太陽暦)は、非科学的非合理的であろうか？作成の基本的考え方の概要は、次の通りである。

歳(年)の最初の月、一月を正月というのは、老子の言葉「候王は、一を得て以て天下の正となる」によると考えられる。何時を正月にするかを古代中国では、「天」になり代わって皇帝が決定したということである。この決定内容も天体観測とひとつの哲学から決定していた。具体的には、冬至と一陽来復である。言うまでもなく、太陽の日照時間が最も短い冬至を過ぎると日が長くなる、「光の春」である。これを寿ぐという考えである。古代における暦の作成にあたっての考え方は、洋の東西を問わず、「冬至」を年初の指標としていたわけである。周の頃までは、冬至を含む月を子月、正月としていたが、前漢の頃から「気温の春」である立春を含む月、寅月を正月とするようになったと考えられている。実際に、立春を過ぎた頃から暖かくなる。唐の大衍暦では、天体観測と計算によって導きだされた上元(一種の暦の紀元)を「甲子夜半朔旦冬至」(甲子の日の午前零時に月が朔となり太陽が冬至の位置にあるという意味で9,696万年以上前)としている。

月の朔望(満ち欠け)を基準にした12ヶ月の一年は354.3660日。太陽暦の一年365.2422日(地球の公転周期)よりも約11日不足している。この日数や季節の調整を3年に一回程度、二十四節気との関係で閏月を挿入して行っている。太陽暦19年で7回閏月を挿入して、両者の日数をほぼ一致させている。古代中国では、周(前1120～前256年)の時代に既に採用していたと言われている。

おわりに

今回は、旧暦の日本への伝来と作成の考え方に重点を置いて述べてみました。紙幅の関係で言葉足らずの箇所が多々あると思われます。ここに、お詫びするとともに皆さんのご叱正をお願い致します。

来る8月22日(日)には学習会を開きますのでこれまで述べ足りなかったことをお話ししてみたいと思っています。ご参加お待ちしています。

口～日光神社～稜東公園～多摩御陵内の鎌倉街道～出羽山公園(昼食)～八王子城下町～梶原八幡神社～赤門橋～八王子城への下道と上道～大木戸・宋関寺(15:00頃解散予定、高尾駅行きのバス多数)約6ｋｍ

連絡先:山下　実☎090-5208-3123

●6月26日(土)
東山道武蔵路
～道から始まった国づくり？！～

ガイド:秋田慎子(団員)須知正度(団員)

【内容】東山道武蔵路からはじまった国づくり―府中の武蔵国府造営そして武蔵国分寺の建立―その道を歩いて古代武蔵の鼓動を感じたいと思います。古代の官道である東山道武蔵路は、おおよそ7世紀後半につくられたといわれ、北の上野国から府中の国府に真っ直ぐに伸びています。武蔵路沿いに武蔵国分寺が営まれて、僧寺・尼寺・七重の搭があり、範囲は東西八町(880m)南北五町(550m)に及ぶもので、諸国国分寺のなかでも最大の規模とされ、総国分寺の東大寺にも劣らない規模です。近くには湧水群もあり、資料館には、全国の国分寺瓦を集めた住田コレクションもあります。これら国分寺遺跡の中に立ち、「四神相応の地」を実感したいと思います。

【コース】ＪＲ中央線／武蔵野線西国分寺駅南口改札口前10:00集合～日影山遺跡(東山道武蔵路)～お鷹の道・真姿の池湧水群～武蔵国分寺資料館見学(100円)～「史跡の駅おたカフェ」にて資料収集及び昼食～武蔵国分寺僧寺跡～七重の搭跡～文化財資料展示室(尼寺のビデオ)～武蔵国分寺尼寺史跡～西国分寺駅南口(解散15:00頃)

連絡先:須知正度☎090-3695-7580

※2月27日(土)のガイドウォークは雨天中止になりましたので、9月以降に振り替え実施予定です。

ガイド・ウォークの共通参加事項
・参加費＝団員/500円　一般/700円
・現地申込　・弁当・雨具持参

地域の歴史ロマンを追って

防人まつり2006終了後出演者を囲んで

■2004（平成16）年度
それはゼロからの出発だった！

2004年（平成16年）10月9日（土）午後、季節はずれの台風13号が東京を直撃。その強い風雨が多摩市永山公民館ベルブホールの窓を叩きつけ、一部の部屋では浸水騒ぎが起こるなかで、歴史古街道団の設立総会・は始まりました。集まったのは、歴史街道探検隊・鎌倉古道さとびとの会・サークル歩知歩知・渡来文化交流団・高麗若光研究会、その他身近な多摩の歴史を守ろうと思う一般市民約50人。活動拠点はもちろん、支援者も資金も組織もない、文字どおりゼロからの出発でした。

＜まちおこしフォーラム＞

第一部＝歴史古街道団発会式

第二部＝講演会

○道の歴史を考える～関東そして多摩　武部健一氏（道路文化研究所理事長）

○多摩丘陵は歴史資源の宝庫だ！　宮田太郎・歴史古街道団団長（古道研究家）

■2005（平成17）年度
さきもりまつりを創造

○11月23日、さきもりまつり2005を開催

○モニュメント
万葉防人見返りの峠標柱を自力建立（長さ3m、太径27cm）

○古道探索ウォーキング14回、学習会5回、ガイド養成講座3回開催

本格活動初年度となる2005年度、多摩丘陵の古道の存在を象徴する野外イベントとして、飛鳥奈良時代に武蔵国から筑紫国に向けて防人が出征した歴史から「防人まつり」を創造。当時の衣装を時代考証しながら手作りで装束を作成したり、府中の国府から防人たちが歩いた道筋を検証ウォークたり、万葉歌の学習会を積み上げて11月23日に「万葉防人見返りの峠ォーキング」を開催。

多摩まちづくりファンドの助成対象事業にも認定されて多摩地区全域から200人が参加。マスコミをはじめ地域情報誌や多摩地区の観光・行政関係者も、オール多摩の広域的歴史イベントに注目しました。

■2006（平成18）年度
多彩な地域活動を広範に

○東京文化財ウィーク2006に協力～多摩よこやまの道全線開通、

○新企画・ガイドリーダーによるミニウォーキングの開催

○みんなで団活動を…と「サポートメイト」制度

多摩の歴史資源生かした町づくりへ

5年間のあゆみ

この年7月20日に多摩よこやまの道（9．5キロ）が全線開通したことを祝い、文化庁・東京都・多摩市主催の「東京文化財ウィーク2006」に市民団体としては初めて協力。10月14日・28日の2回に分けて、歴史散歩しました。また、団員相互の学習とリーダー養成を兼ねて、団員による身近な歴史・史跡探索会「ガイドウォーク」を新設。団員の素朴な対応が好評でした。

■2007（平成19）年度・・・
多摩の万葉時代・さきもりパレードに出演

○さきもりまつり2007が「東京多摩交流センター助成事業」に認定

○パルテノン多摩20周年記念事業「さきもりパレード」実行委員会に参画して開催

○手作りの防人衣装で「さきもりまつり2007」を実施。あわせて歴史古街道団写真展を初めて開催

○要望してきた町田市・華厳院坂の古道遺跡保存策が決定

団主催のさきもりまつりが、（財）東京市町村自治調査会・多摩交流センター「広域的市民ネットワーク活動等の事業助成」に認定されました。

この年に多摩市の文化施設、パルテノン多摩開館20周年記念市民参加企画事業「多摩の万葉時代さきもりパレード」が企画採用されたため、（財）多摩市文化振興財団主催の実行団体として、10月6日（土）午後、多摩センター駅からパルテノン多摩階段までの歩行者専用デッキ上で、古代衣装の出演者34人のパレード、歌謡コンサート、舞踊、ミニトークなど華やかな野外コンサートを開催しました。

■2008（平成20）年度
武蔵国衙跡からウォーキング開始

○さきもりまつり2008を府中市教育委員会と連携、武蔵国衙からの出発式で開催

○ガイド養成講座の実施。団員ガイドリーダーによる歴史ウォーキングを多彩に開催

○厚木の前方後円墳本格調査に向けた準備に着手

いたと云う。その吾作の家が取り灰の不始末から出火、それが夜中だったので家の者の命も危なかった。動物の感でいち早く大事に気付いた飼い馬の葦毛は馬の籬を蹴破って、泣き叫んでいた吾作の幼い子供も銜えて庭に助け出したのである。この馬のお陰で家人もみな無事に火難を逃れたと云う。この馬の恩を感じた吾作は終生この馬をわが子のように可愛がり、死後も自宅の庭隅に葬り、そこに馬頭観音として祀り、家の守り神にしていたのである。この家は今も豪農として栄えている。

（平成十二年発行）

【著者紹介】

井上正吉。大正8年生れ。多摩市関戸在住。現在も元気に田や畑を耕し、短歌・俳句を詠み、謡曲を習う。主な著書は『吉富の村人たち』『多摩の語りべ』『多摩の民話』『野翁小咄』『帥人』など。

ウォーキングガイドをする宮田団長

○古道保存とフットパス運動との連携をさぐる

この年は府中市の協力により市史跡として復元整備された武蔵国衙跡での荘重な出発式からのスタート。またメイン会場を多摩市立大谷戸公園に変更し、約1時間の音楽コンサートで楽しいひとときを過ごしました。

■2009（平成21）年度 関東最古の前方後円墳確認か？

○多摩よこやまの道と多摩丘陵・古街道遺跡群との関連調査

○町田市・華厳院坂の道路工事着工

○厚木・愛名高松山古墳の見学会と大調査実施

○府中市市制施行55周年記念事業に協力

○団創立5周年記念祝賀会開催

2009年2月に東京町田市を拠点に日本フットパス協会が設立されたのを機会に、連携して歴史を背景としたフットパス活動を広く提唱しています。5月5日・6日、神奈川県厚木市愛名の仮称・高松山古墳の測量調査を実施しました。調査によると、標高146.5㍍、山頂部からほぼ南北に作られた人工物は前方部34㍍、後円部30㍍、前方部と後円部の比高差2.7㍍あり、かなり早期の大規模な前方後円墳ではないか？と想定され、引き続き現地見学会や調査が必要です。

この年10月には、府中市の市制施行55周年記念事業として行われた「国府サミット」のシンポジュウム及び国府祭（防人）パレードには団として全面的に協力しました。

2010年度 会費納入のお願い

2010年度年会費納入の時期になりました。年会費 3,000 円（ご家族は 2 人で 3,000 円）を同封の振替用紙で、お早めに納入願います。

[振込先]

☆口座名/歴史古街道団

☆郵便振替口座番号

00140-7-445195

“さきもりまつり2010”

10月31日（日）開催

企画会議にご参加ください

今年の「防人まつり」は10月31日(日)に、「多摩よこやまの道」を中心に行います。このため4月3日(土)午後1時30分から関戸公民館ミーティングルームで１回目の企画会議を開きます。今年の祭りをどのように展開したら良いかー。あなたも出席して企画参加してください。

新規入団者募集中

ご家族・お友達を誘って下さい

2010年度の歴史古街道団団員を募集しています。年会費は3，000円。入団者はウォーキング・学習会参加費が割引になるほか団報やお知らせをお届けします。入団等に関するお問い合わせは、☎042－373－7382 事務局・濱野まで。

団のホームページ

情報提供の充実をめざして

団の公式ホームページとして昨年9月から、見やすさを追求し掲載できるスペースを大幅に拡大してリニューアルオープンしました。まずは、団の活動要旨・目標などを見やすくし、団員の皆さんにより充実した情報提供を目標に活動予定と記録の充実を図りました。今後、本紙を補完する情報の掲載も検討しています。

http://rekishikokaidodan.a.la9.jp/

<歴史の旅>カルチャースクール主催

講師ガイド：宮田太郎

◆4月14日（水）～16日（金）

2泊3日　羽田発着　123,000 円

（主催：朝日カルチャーセンター新宿）

☎03－3344－2041（志水）

『海の道・陸の道“壱岐・対馬の古代史を訪ねて”～日本と朝鮮半島をつなぐ歴史の島々～』

【見所】壱岐＝原ノ辻遺跡、一宮、古墳群と遺跡群　対馬＝和多津美神社、古墳群宗氏史跡ほか

◆6月3日（木）～5日（土）

2泊3日　羽田発着　71,800 円

（主催：クラブツーリズムあるく）

☎03－5323－5566

『新視点！九州古代王国と邪馬台国の謎を歩く』

【見所】吉野ヶ里、伊都国、奴国、宗像、筑紫（大野城、大宰府、高良山、岩戸山古墳）ほか

◆6月15日（火）～18日（木）

3泊4日　羽田発着　127,000 円

（主催：NHK 学園）＊お問合せ/郵船トラベル☎03－5213－6237(諸井)

『歴史の島“隠岐”と、神話の“出雲”に遺跡ロマンを訪ねて』

【見所】出雲＝玉造り史跡、八重垣神社、国府・国分寺、須佐神社加茂岩倉遺跡、神庭荒神谷遺跡、出雲大社と博物館ほか　隠岐＝弥生墳丘墓、玉若須・水若須神社、国分寺、後醍醐天皇史跡、由良姫神社ほか三島を巡ります。

多摩の昔ばなし ⑥

馬頭観音さま

井上正吉著『野翁小咄』より

馬頭観音とは御頭に馬の形の頭をいただく観音さま。難しいことは判らないけれども、田舎では死んだ馬を供養する仏と言い伝えられている。この関戸村は街道だったからか、今も三体もの観音さまが苔むして道の辺に立っていられる。馬は器械のなかった昔、それはそれは貴重な生き物だったのである。当然、戦国の世では武士の騎乗の為飼われて名将は必ず駿馬を持っていた。ずっと後の世になっても物資の輸送には最も効率のよい生き物だったのであるが、生き物だから寿命つきれば必ず死ぬ。その飼い主は己の為に働いた愛馬の為にその後生安らかになるように、馬頭観音を立てて祀ったのである。この村は鎌倉街道が村の真ん中を貫いていたから馬に係る話もいくつか伝えられているのである。その一つを記すとしよう。村の吾作の家は代々の旧家で常時馬を飼って

2010年春から夏の歴史ロマン古道予定表（一部計画中を含む）

注）問合せ欄；(団)＝歴史古街道団、【協力団体】(里)＝鎌倉古道さとびとの会。旅行以外は事前の申し込みは不要です。
探索・学習テーマ欄；歩＝宮田太郎ウォーキング、学＝講演会／学習会、ガイド＝ガイドリーダーウォーク

月日	集合場所・時間	探索・学習テーマ	参加費	申込み	問合せ先
4月4日(日)	京王線「聖蹟桜ヶ丘駅」西口改札口前09:30	【歩】奥州古街道を探る① （聖蹟桜ケ丘～愛宕神社）	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL090-7002-3431
4月6日(火)～8日(木)	JR東海道線／東京駅発着	【旅行】丹後＆若狭国の浦島太郎伝説と元伊勢の海人遺跡を探る、(C4482-341)	68,800円／人	クラブツーリズムあるく TEL03-5323-5566 Fax03-5323-6849	
4月11日(日)	小田急･京王永山駅 小田急側改札口前09:30	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！（東コース）	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
4月14日(水)～16日(金)	羽田空港発着	【旅行】『海の道・陸の道“壱岐・対馬の古代史を訪ねて”～日本と朝鮮半島をつなぐ歴史の島々～』	123,000円／人	朝日カルチャー主催･郵船トラベル（諸井）TEL03-5213-6237 fax03-5213-6228	
4月17日(土)	JR横須賀線／鎌倉駅 東口改札前 10:00	【ガイド】新田義貞の鎌倉攻～攻防の要となった尾根を歩く～	団員:500円 一般:700円	当日	(団)藤田 TEL042-752-9840
4月19日(月)	JR八王子駅中央改札口前09:45	【歩】八王子川口氏の館跡の古街道	800円	当日	(里)遠藤 TEL042-376-1122
5月1日(土)	小田急線／唐木田駅改札口前09:45	【歩】奥州古街道を探る② （唐木田～小山田大泉寺）	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL090-7002-3431
5月7日(金)	東急東横線「大倉山駅」改札口前10:00	【歩】大倉山記念館と師岡の古代遺跡地帯を歩く	800円	当日	(里)遠藤 TEL042-376-1122
5月9日(日)	小田急･京王永山駅 小田急側改札口前09:30	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！（西コース）	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
5月15日(土)	小田急線「鶴川駅」北口改札口前 09:30	【ガイド】新緑の初夏、民権フットパス	団員:500円 一般:700円	当日	(団)安藤 TEL042-735-1615
5月23日(日)	JR中央線/京王線「高尾駅」南口（京王側）改札口前 09:30	【ガイド】鎌倉街道秩父道と八王子城上道を探る	団員:500円 一般:700円	当日	(団)山下 TEL090-5208-3123
5月30日(日)	関戸公民館8F大会議室（VITA 8F）13:30	【総会】歴史古街道団２００９年度総会 総会後、講演『新視点！飛鳥真神人と古代武蔵国の都市設計～キトラ古墳と武蔵大国魂神社の深い関係の謎～』講師 宮田太郎氏（団長・古街道研究家）	－	－	(団)宮田 TEL090-7002-3431
6月3日(木)～5日(土)	羽田空港発着	【旅行】新視点！九州古代王国と邪馬台国の謎を歩く （C-4483）	71,800円／人	クラブツーリズムあるくTEL03-5323-5566 Fax03-5323-6849	
6月13日(日)	小田急･京王永山駅 小田急側改札口前09:30	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！（東コース）	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
6月15日(火)～18日(金)	羽田空港発着	【旅行】歴史の島“隠岐”“と、神話の“出雲”に遺跡ロマンを訪ねて	127,000円／人	NHK学園主催･郵船トラベル（諸井）TEL 03-5213-6237 fax03-5213-6228	
6月22日(火)	小田急･京王多摩センター駅 小田急側改札口前09:00	【歩】奥州古街道を探る③／さとびとの会・共催 （鳥居峠～箭幹八幡宮～淵野辺）	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL090-7002-3431
6月26日(土)	JR中央線･武蔵野線／西国分寺駅南口改札口前 10:00	【ガイド】東山道武蔵路一道からはじまった国づくり？！	団員:500円 一般:700円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
7月6日(火)	西武国分寺線「東村山駅」改札口前10:00	【歩】東山道武蔵路と秋津の悲田処古道を探る	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL090-7002-3431
7月11日(日)	小田急･京王永山駅 小田急側改札口前09:30	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！（西コース）	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
7月24日(土)	京王線「聖蹟桜ヶ丘駅」西口改札口前07:40	【バス】縄文ロードを車山高原に探る ～諏訪御柱祭のルーツと御射山遺跡の謎～	大人:8,000円/人 小人:6,000円/人	定員:23名 〆切 7/14	(団)宮田 Fax042-389-5534
8月1日(日)	関戸公民館8F･大会議室 （VITA8F）13:30～16:30	【学】関東の邪馬台国時代ロマン“東京湾連合王国”講師 宮田太郎氏（団長・古街道研究家）	団員:500円 一般:700円	当日 先着90名	(団)宮田 TEL090-7002-3431
8月8日(日)	小田急･京王永山駅 小田急側改札口前09:30	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！（東コース）	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
8月22日(日)	関戸公民館8F大会議室 （VITA8F）13:30～16:00	【学】暦と日本人～縄文・弥生から現代まで～	団員:500円 一般:700円	当日 先着90名	(団)須知 TEL090-3695-7580
9月12日(日)	小田急･京王永山駅 小田急側改札口前09:30	【ガイド】定期ウォーキング、多摩よこやまの道を歩こう！（西コース）	団員:300円 一般:500円	当日	(団)須知 TEL090-3695-7580
9月20日(月・祝)	JR横浜線「古淵駅」改札口前09:45	【歩】奥州古街道を探る④ （相模原市大野台～麻溝台）	団員:700円 一般:1,000円	当日	(団)宮田 TEL090-7002-3431

編集後記 梅の香に続き、桜だよりも聞かれる頃となり多摩にも里の春がやってきました。古街道団も昨年末に創立５周年記念祝賀会を終え、更なる発展に向けてスタートします。その為にも、もっと多くの団員が必要ですので、お友達・お知り合いをお誘い下さい。今年もよろしくお願い致します。

編集責任：歴史古街道団広報部（河村・金子・遠藤）

【発行】歴史古街道団
事務局：〒206-0013 東京都多摩市桜ヶ丘 4-36-21 APT1･2･3-302
宮田太郎（歴史古街道団団長） TEL/FAX 042-389-5534
http:// rekishikokaidodan.a.la9.jp/